

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑬こどもの生活面における対応

- ◆ こどもの情緒の変化に素早く気付けるよう観察することが大切である。問題が起こりやすい時期(学校行事が多い時期、長期休みの後)は、特に注意が必要であることを知った。また、支援員間で情報を共有することが大事であることも分かった。衛生面ではいろいろな食中毒、アレルギーがあること、その上で適切な対処法を把握する知識の必要性を感じた。そして、自分自身が感染源にならないよう衛生面で気を付けなければならないと思った。
- ◆ アレルギーや食中毒の対応を学びました。衛生管理や手洗いなど改めて大事だと感じました。また、おやつも食べたことがない物だと食べない子どもがいますが、言葉掛けが大事だと思いました。食べてみたくなる言葉掛けを意識し、学んだことを参考にしたいと思います。アレルギー、食中毒、子どものいつもと違う様子など、いろいろ気を配りながら支援していきたいと思います。
- ◆ 特に保育園から小学校へと大きな環境の変化を伴う子どもと保護者について、コミュニケーションの大切さを感じた。支援員間の情報共有も必要で、小さな変化に気付くことが大事だと思った。子どもの体調や感情の変化など、話しやすい信頼関係を作ることも大切だと思う。また、感染症予防やアレルギー対応について常に意識し、緊急時に速やかに動くことができるよう訓練も大切だと感じた。
- ◆ 子どもの普段の体調や感情の状態を把握し、支援員間で情報を共有することが大切ということが分かった。また、食事のポイントでは、楽しく食べることを第一に考えること、また落ち着いて食べる環境を整えることをしていきたいと考えた。子どもは支援員の言葉掛け一つで変わることが分かったため、おやつを提供するときは「おいしいよ」などと、プラスの声掛けをしていこうと思った。アレルギーにはいろいろな種類があり、その際エピペンを使用することを学んだ。職場で何でも話せる場を設定するために、普段からのコミュニケーションがとても大切なことを知った。子どもの健やかな成長を支援するためにしっかりと子どもたちを見守っていこうと思った。
- ◆ 子どもたちの健康状態や心身の状況を理解することと、アレルギー対策やたくさんのウィルス対策をしていかなければならないと知りました。初めて聞くウィルスが多く、それぞれに危険な症状が出るということを知ることができたので、しっかり対策をしていきたいと思います。また食べ物だけでなく、動物や水道水から感染するということも知ることができてよかったです。普段の生活の中でアレルギーやウィルスが付き物なので、罹らないようにうつさないようにしていきたいです。